

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 0	2	百日咳	→ 2	2
RSウイルス感染症	↑ 35	21	ヘルパンギーナ	↑ 13	10
咽頭結膜熱	↓ 4	5	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 73	47
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 72	64	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 174	169	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 11	9
水痘	↑ 57	51	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 18	24	無菌性髄膜炎	↓ 0	2
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 3	5	マイコプラズマ肺炎	↑ 7	5
突発性発しん	↓ 27	36	クラミジア肺炎	↑ 1	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 174 件(前週報告数 169 件)と増加。地区別では、有明、宇城、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の29件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 73 件(前週報告数 47 件)と増加。地区別では、有明、水俣、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、4歳の11件を最多に、15～19歳以下からの報告である。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 72 件(前週報告数 64 件)と増加。地区別では、菊池、天草、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の12件を最多に幅広い年齢層からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	
熊本市保健所	0	9	2	39	32	20	2	0	9	0	7	25		10				5	1
山鹿保健所	0	0	0	0	9	11	0	0	0	0	0	1	*	*					
菊池保健所	0	8	0	12	16	8	0	0	6	0	0	6		1					
阿蘇保健所	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	*	*					1
御船保健所	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	*	*					
八代保健所	0	6	0	3	21	1	8	0	1	0	0	6							
水俣保健所	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	5	*	*					
人吉保健所	0	8	0	5	19	0	0	0	1	0	0	4	*	*					1
有明保健所	0	0	1	0	44	13	2	0	2	0	0	19							
宇城保健所	0	0	0	2	20	2	2	0	2	0	2	3							
天草保健所	0	4	1	11	7	2	4	1	6	0	4	4							
計	0	35	4	72	174	57	18	3	27	2	13	73	0	11	0	0		7	1

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	35	9	11	11	2		2															
咽頭結膜熱	4			2	1		1															
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	72		1	2	2	6	6	11	9	10	5	6	12	1	1							
感染性胃腸炎	174	3	13	29	19	16	15	15	10	7	4	5	26	5	7							
水痘	57		6	9	14	14	4	4	5	1												
手足口病	18		1	8	2	4	1			1												
伝染性紅斑	3				1	1						1										
突発性発しん	27	1	12	14																		
百日咳	2																					2
ヘルパンギーナ	13		1	2	2	2	2	1	3													
流行性耳下腺炎	73		1	6	7	10	11	9	7	9	4	2	6	1								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	11		1		1							1			1	3	3	1				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	7		1	1	3	1				1												
クラミジア肺炎	1			1																		

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域
ありませんでした。**

A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、夏には報告が少なく、秋から冬にかけて増加します。今年は特に前々週以降、例年に比べ多い報告数で推移しています。今週は6つの地域(保健所)から72件の報告があり、同じ時期としては平成19年以降で最も多く、約2倍の報告数です。2～5日の潜伏期のあと、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。通常は1週間以内に症状はおさまりますが、のどの点状出血や、莓舌(莓の表面のように赤くぶつぶつになる)が見られることもあります。また、しょう紅熱(顔や体に点状紅斑や皮疹等が出現する)を起こすこともあります。腎炎などの合併症を起こすこともありますので、症状があったら早めに医療機関を受診してください。患者のせきやくしゃみから感染しますので、兄弟間や、学校・幼稚園・保育園など集団生活施設内での感染も多く見られます。予防には患者との接触を避けること、うがい・手洗いなどの一般的な予防法を励行することなどが重要です。